

ハンセン病療養施設の建築計画に関する研究

—国立療養所星塚敬愛園の歴史の変遷 その2—

ハンセン病 星塚敬愛園 療養所
変遷 施設平面図

正会員 ○楠木雄一朗**
同 友清貴和*
同 藤本啓輔**

はじめに

前稿では、鹿児島県鹿屋市国立療養所星塚敬愛園において主に寮舎の変遷についてまとめた。本稿では、同療養所における寮舎・医療施設以外の施設についてまとめる。

施設の変遷

日本のハンセン病政策のもと、星塚敬愛園においてもハンセン病患者は療養所に隔離され、療養所から出ることが許されなかった。そのため敬愛園はあたかも村落のようであり、【表1】にみられるように、一般の療養所とは異なる、治療・療養以外の施設が数多く建設された。ここでは、寮舎・医療施設以外について取扱う。

表1 治療・療養施設以外の施設一覧

開園当初	1935年	消毒棟、患者炊事作業場、理髪室、監禁室、動物飼育室、豚舎詰所、消防団詰所、売店、保育所、門衛所、監視室、縫製室、面会所、作業室、火葬場
	1936～1949年	集会室、木工部作業室、製茶工場、放送室、敬愛図書館、牛舎、鶏舎、敬愛納骨堂、楓光幼稚園(星塚幼稚園)、礼拝堂、豚舎、ミシン部、乳牛舎、恩賜会館、鶏舎係詰所、敬愛橋、敬愛グラウンド、敬愛学園(小学校)
戦後の変革期	1950～1964年	キリスト教会堂、面会人宿泊所、保安部事務所、火葬場、始良中学校、縫工場、カトリック聖堂、気象観測室、木工室、仏教会館、自治会館、製茶工場、保育所、物品取次所、鐘楼堂(仏教)、娯楽室、消毒池、精米工場、天理教会館、カトリック教会娯楽室、盲人会館
整備期	1965～1979年	講堂(公会堂)、カトリック教会納骨堂、乳牛舎、盲人会館、敬愛納骨堂、太陽会館(創価学会)、理・美容室、厚生会館、ショッピングセンター、汚水処理棟
充実期	1980～1995年	高齢者会館、郵便局、放送室、娯楽室自治会事務所、火葬場、弱視会館、礼拝堂(宗教会館)、機能回復訓練室、総合汚水処理場、大黒屋(売店)、屋内訓練棟、ピリヤード会館、コミュニケーションセンター、理・美容棟、リハビリ作業訓練棟、作業棟、退院者訓練棟、縫製作業棟、デイケア棟、面会人懇談室、面会人宿泊所、盲人福祉会館、高齢者会館、視覚障害者誘導システム、保育所、納骨堂

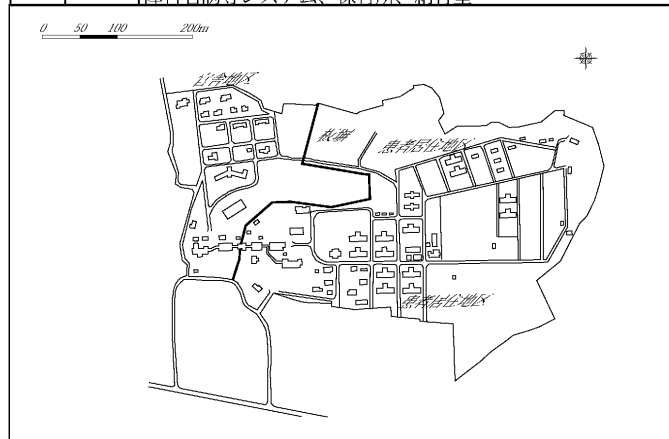


図1 配置図 1936年(開園当初)

■開園当初(1935～1950)【図1】

星塚敬愛園は他のハンセン病療養施設に比べて、比較的遅く建設されたため、開園当初から様々な施設が整備されていた【表1】。また、官舎地区と患者居住地区とは板塀により区別されていた。

○監禁室(1935～1959)【図2-a】 1929年に、療養所長に患者に対する懲戒検束権が与えられたことにより、当施設では開園時から監禁室が設けられた。3帖の板敷きの3室からなり、監禁室全体は高さ4m程のコンクリート塀に囲まれていた。1943年に移築され、戦後、監禁室が使用されることはほとんどなかった。

○木工場【図2-d】・縫工場・洗濯場・理髪室・火葬場 施設は入所者に農業牧畜、購買部の経営や葬儀、火葬、洗濯、縫製、電気、土木、大工、左官、宮繕、公共建物管理、製茶、理髪などの業務を奨励し、本来職員が行うべき病棟入室者、不自由者の付添看護も入所者によって行われた。これが患者作業の始まりとなり、園の運営上必要不可欠なものとなっていく。患者作業なしにはハンセン病療養所の運営は成り立たなかったのである。そのため、これらの患者作業を行うため数多くの施設が建設された。

○礼拝堂(1940～1983)【図2-b】 映画、演劇などの慰問、集会、入所者による歌舞伎、舞踊、演芸などを行う場として広く利用された。内部はハンセン病療養所の特殊性を象徴するように、入所者と職員・一般者とは舞台だけでなく客席、出入口、楽屋までが分けられていた。

○販売所(1935～)【図2-c】 購買部には販売部門と工場部門とがあり、仕入れはすべて販売係によって行い、服の生地などを購入しては入所者の注文に応じて新調したり、中古衣料の裏返しや仕立て直しは工場部門の仕事でミシン、裁縫係がこれに当たった。また、この工場部門では、竹細工係も設けられており、竹箒、デッキブラシなどの材料を購入して、これらを製品化していた。

○納骨堂(1938)【図2-e】・敬愛グラウンド(1936)・楓公園(1937)・敬愛橋(1943) これらは入所者で組織する敬愛開拓振興隊を中心に患者自身の手で建設されたものである。中でも、敬愛橋は満3年の歳月をかけ築かれたものである。

■戦後の変革期(1951～1964)【図4】

「らい予防法」は退所規定のない終生隔離を定めたもので、施設の整備拡充が図られた。【表1】に見られるように宗教施設や集会施設も多く建設された。また、1960年には星塚簡

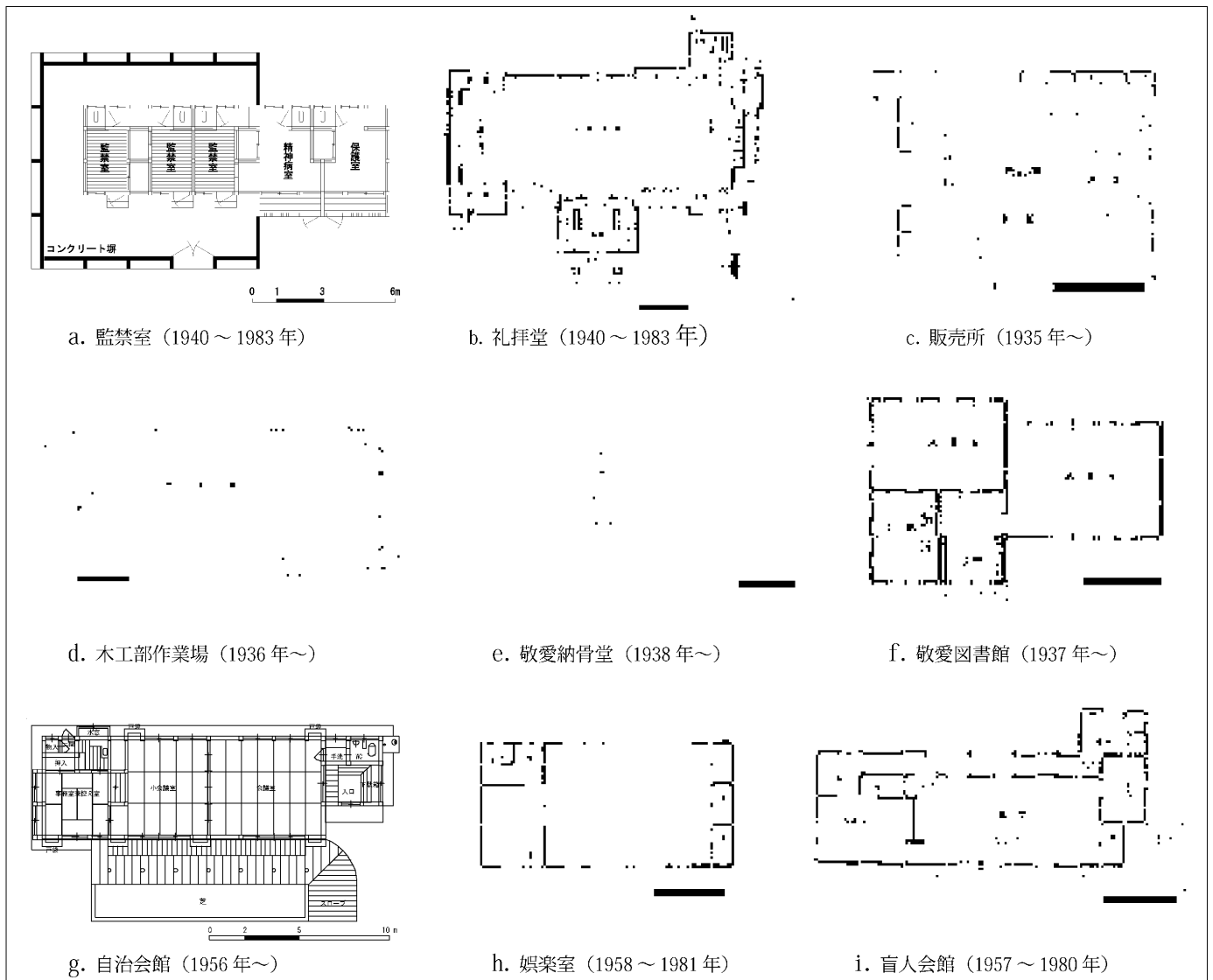


図2 施設平面図

易郵便局なども開設された。

○小・中学校分校(1950～) 開園当初から、図書館【図2-f】の1室で入所者教師による授業が行われていたが、西俣小学校分校、大始良中学校分校が開校し、園内に教育地区が完成した。しかし、一般社会における衛生向上と生活安定から、就学児童の発病も減少し、1974年廃校となった。

○宗教会館・集会施設 敬愛園では戦後すぐに入所者自治会【図2-g】が発足し、文化療園の建設が叫ばれ、宗教活動やサークル活動が盛んに行われた。これによって各種宗教施設や娯楽室【図2-h】、盲人会館【図2-i】などの施設が国の施設としてではなく寄付金によって建設された。また、1975年前後まで寮舎の建設・改修なども入所者の営繕係が関与し、入所者の意見も取り入れられたといわれている。

■整備期(1965～1980)

開園以来の古い建物の解体が始まり、徐々に新しい用途の建物が建設された時期である。

また、1969年に不自由者の付添看護が職員へ返還されたことを始めとして、理髪、営繕、土木、郵便などの職種が

逐次職員へ移管し、実質的な患者作業は1975年にはほとんど終息した。

■充実期(1980～1995)

この頃になると戦前の建物はほぼ取り壊され、戦前を窺い知ることができるような建物は残っていない。また、ピリヤード場などのスポーツ施設、入所者の加齢に伴う高齢者会館や厚生会館などの福利厚生施設、さらにはデイケア棟やリハビリ関連施設も建設されている。

まとめ

入所者は施設外に出ることが許されなかったため、療養生活のすべてを施設内で送り、時代の変遷とともに施設内には人間の集団が生活する上で必要とされる施設の多くが建設されたことが分かった。今後は、入所者へのインタビューを通しそれぞれの施設内での入所者の生活の様子を記録することも検討していきたい。

—参考文献—

- ・名もなき星たちよ～星塚敬愛園五十年史～ 星塚敬愛園入園者自治会 1985
- ・創立60周年記念誌 国立療養所星塚敬愛園 1995

* 鹿児島大学教授・工博

** 鹿児島大学大学院

* Prof.,Dept.of architectuer, Faculty of Eng, University of Kagoshima, Dr. Eng

** Graduate school, Dept. of architectuer, Faculty of Eng, University of Kagoshima